ISSN 2185-680X

京都大学国際交流センター

# 論　攷

## 1号

発刊の辞…… 京都大学国際交流センター長　森　眞理子 ……i

**研究論文**

大学生の留学志向と社会的背景
——日中比較を手がかりとして …… 河合　淳子，韓　立友，孔　寒冰 … 1

Factors Contributing to Holistic Listening of Kyoto University Students:
A Preliminary Study …… Masayasu Aotani … 21

副詞「いよいよ」を通して見た出来事成立に対する話し手の捉え方
…… ルチラ　パリハワダナ … 45

**調査報告・実践報告**

G30 and its Implications for Japan…… Junichi Mori … 63

日本人学生と外国人留学生の共学による実績と課題点の考察
——京都大学国際教育プログラムにおける英語による
日本古典文学の教育を通して—— …… 河上　志貴子 … 73

**研究ノート**

国際共同学位プログラムの定義と実施に関する課題 …… 渡部　由紀 … 95

**投稿要領** …… 105
**編集後記** …… 107

2011年2月

ISSN 2185-680X

京都大学国際交流センター

# 論　攷

# Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

## 第 1 号

2011 年 2 月
京都大学国際交流センター

# 『京都大学国際交流センター論攷』投稿要領

（2010 年 6 月 25 日、国際交流センター教員会議決定）

## 1. 刊行の趣旨

『京都大学国際交流センター論攷』は京都大学国際交流センター（以後、「国際交流センター」）に勤務する教職員の研究及び教育活動・国際交流実践の成果を発表する場とする。

## 2. 編集

本論攷の編集は国際交流センター教員会議で選出された編集委員会にて行う。また、投稿された論稿の採否については編集委員会が査読の上、審査・決定する。

## 3. 投稿資格

投稿は、

1）国際交流センター専任教職員

2）京都大学において留学に関連する教育に携わる教員

3）国際交流センター非常勤講師

4）その他に国際交流センターと連携し、本センターの推進する業務に携わる者で、編集委員会が適当と認めた者

が執筆した未発表の論稿に限る。

但し、ページ数の関係上競合が生じた場合、原則的に上述の順番を原稿の採用順としながら、編集委員会において調整を図る。

なお、各号への投稿は１名１本を原則とする。

## 4. 投稿原稿の内容

原稿の対象分野は次の通りとする。

日本語研究、日本語教育及びその調査･研究、日本文化研究、日本文化教育及びその調査･研究、留学生アドバイジングに関わる調査･研究、高等教育の国際化に関わる調査･研究、留学生ニーズ・留学実態に関わる調査・研究、第二言語習得に関わる調査・研究、多文化交流教育に関わる調査・研究、学術・学生交流施策に関わる調査・研究、その他、国際交流センターが推進する業務と関わりのある分野で編集委員会が適当と認めたもの

## 5. 原稿の種別

1）研究論文

2）調査報告または実践報告

3）研究ノート

## 6. 原稿の体裁

1）原稿は、A4判横書きとし、和文の場合、40字×34行、英文の場合、ダブルスペース25行とする。

2）原稿の分量は、研究論文は20枚程度、調査報告または実践報告は15枚程度、研究ノートは5枚程度とする。提出原稿に、研究論文、調査報告・実践報告、研究ノートの種別を明記する。

3）原稿には、和文・英文両方の標題、日本語（400字程度）及び英語（200語程度）による要旨、キーワード（5つ以内）をつける。

4）電子ファイル及び出力した原稿の両方を編集委員会に提出する。

## 7. 執筆言語

執筆言語は日本語または英語とする。

## 8. 査読

編集委員会が選出した2名の査読者が査読を担当する。

## 9. 校正

校正は、編集委員会のコメントに基づき、執筆者本人が所定の期日までに行う。

## 10. 著作権

『京都大学国際交流センター論攷』に掲載された研究論文、調査報告・実践報告及び研究ノートの著作権は国際交流センターに帰属するものとする。また、国際交流センターは、掲載原稿を電子的な手段で配布する権利を有するものとする。但し、編集委員会に連絡の上、掲載原稿を著者の著作物に掲載することや電子的な手段で公開・配信することは可能とする。その場合、『国際交流センター論攷』に掲載されたものであること、号数などを含めて明示する。

## 11. 投稿締め切り

毎年9月末日を締め切り日とする。

## 12. 抜き刷り

執筆者には掲載号を3部進呈する。抜き刷りは実費負担となるが、必要な場合は、採用決定後に編集委員会に通知する。

# 編集後記

「論攷」を刊行するまでの長い道のりを無事乗り越えられたのはひとえに多くの方々のお力添えのおかげである。

先ず、参考にさせていただくための投稿要領を快くお送りくださった一橋大学国際教育センターの五味政信先生、名古屋大学留学生センターの浮葉正親先生の両先生に心からの御礼を申し上げたい。投稿原稿を査読するに当たって、学内の先生方にも惜しみないご協力を頂いた。お忙しい中､快く御協力くださった諸先生方に心からの感謝を申し上げたい。

センターに対してご理解を示してくださる先生方にセンターが取り組んでいる教育・研究活動について知って頂けたことを通しても、「論攷」が目標とする、学術国際化の輪の拡大が果たせたのではないかと嬉しく思う。査読依頼のやり取りを通して垣間見た広い心とプロフェッショナルな姿勢という光に「論攷」の進む道が温かく照らされている。

「論攷」の刊行趣旨は、いわば世界を相手に教育を展開する国際交流センターが、その多様で流動的なニーズに充分に応え得る、高水準で、魅力的な教育が手がけられるよう常に研鑽を積み、その教育・研究の成果を学内外に発信することを通して、更なる質の向上を図ることである。この義務では決してない権利を大切にし、日々の忙しさの中で、原稿をまとめてくださった執筆者にも感謝したい。大学教育の国際化の目指すべき方向性やそれをもたらす仕組み、大学生の派遣留学促進のための方法論、留学生と日本人学生の共学の方法、大学生の言語能力向上を目指した基礎研究などと創刊号を飾る原稿は多様性に富んでいる。しかし、多様とは言え、センターが取り組んでいる種々の教育・研究活動の極一部に限られているということも事実である。次年度にはより多くの投稿が寄せられることを期待してやまない。

「論攷」の命名は森眞理子先生によるもので、「論じ、考察する（小学館、精選版日本国語大辞典)」という意味である。今後もセンターが一丸となって教育の意義・可能性・あり方などを国際的視点から、そして多方面から考えていきたい。「論攷」はグローバル・スタンダードの教育を目指す他大学の国際交流センター・留学生センターや学内の多くの方々との学術交流の結節となることを心から願っている。是非、ご一読頂き、ご意見・ご指摘などお寄せ頂ければ幸いである。

編集委員会　ルチラ　パリハワダナ（委員長)、森　眞理子、河合淳子

京都大学国際交流センター

論攷

Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

第１号

2011 年 2 月発行

編集・発行者：京都大学　国際交流センター

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL：075-753-2242　　FAX：075-753-2562
http://www.ryugaku.kyoto-u.ac.jp/

印刷所：（株）田中プリント

ISSN 2185-680X

# Ronkô

The International Center Research Bulletin
Kyoto University

## Volume 1

Message on the Occasion of Publication
… Mariko Mori (Director, The International Center, Kyoto University) …… i

**Research Papers**

Attitudes toward Study Abroad and their Social Background:
A Comparative Study between Japanese and Chinese University Students
……Junko Kawai, Liyou Han, Hanbing Kong ……1

Factors Contributing to Holistic Listening of Kyoto University Students A Preliminary Study
…… Masayasu Aotani … 21

Speaker's Perceptions of Event Actualization as Expressed by the Adverb *IYOIYO*
…… Ruchira Palihawadana … 45

**Survey and Practical Reports**

G30 and its Implications for Japan…… Junichi Mori … 63

Collaborative Learning among Japanese and International Students:
Case Analysis of an Introductory Course in Classical Japanese Literature Offered at Kyoto University …… Shikiko Kawakami … 73

**Research Notes**

Issues involved in Defining and Developing International Collaborative Programs in Japan
…… Yuki Watabe … 95

**Contribution Regulations** ……105
**The Editor's Comments** ……107

February 2011